

第56号 「学ぶ」

前号で、津田梅子の「環境より学ぶ意志があればいい」という言葉を引用し、学ぶ環境と学ぶ意志について書きました。そもそも「学ぶ」とはどういうことなのでしょう。

辞書によると、「勉強する。教えを受けたり見習ったりして知識や技芸を身につける。経験を通して知識や知恵を得る。」と記述してあります。

「学ぶ」という言葉は「まねぶ」（真似る）と同じ語源であり、「自分が真似したいと思う人のやり方を真似することから始めることが学びの基本である」とよく言われます。私もピアノを習っていた頃は、師匠の演奏を参考にしたりプロの演奏を聴いたりして、真似することから始めていました。もちろん、完璧に真似することなどできませんでしたが……。ただ、私のような凡人にとっては、真似をすることから自分の演奏スタイルを探るしかなかったと思っています。

では、人は何のために学ぶのでしょうか。哲学的に考えると非常に深い問いだと思いますが、私は次のように考えています。知らないより知っている方が、自分の可能性を広げる選択肢を増やすことができる。そして何と言っても、人生を楽しむことができる。少し短絡的でしょうか。

テストで好成绩を取るため、志望校に合格するため、安定した企業に就職するために学ぶと言うことがよくあります。しかし、進学や就職はあくまでも手段であり、短期の目標とはなりますが、学ぶ目的とは異なるものと考えます。自分はどうのような人になりたいのか、どんな生き方をしたいのか、どんな人生を歩みたいのか、その答えを見つけるために人は学ばなくてはならないと私は考えています。おそらく、答えは一人一人異なるでしょうし、もしかしたら答えなんて見つからないかもしれません。それでも、その答えを出すために人は学び続けなければなりません。

子どもたち一人一人が、物の豊かさにごまかされず、環境が整っていることを当たり前とせず、自分の未来についてしっかり考え、学んだことを自分の成長のために生かすという意識を持つこと。そして我々大人は学び続ける大切さを自ら示すこと。このことが、今後の教育に強く求められると考えます。

吉田松陰は次のような言葉を残しています。『人はなぜ学ぶのか。知識を得るためでも職を得るためでも出世のためでもない。人にものを教えるためでも人から尊敬されるためでもない。己を磨くために学ぶのだ。』